

特集「インタラクションの基盤技術，デザイン および応用」の編集にあたって

戸田真志^{†1}

本特集は、2010年3月に学術情報センター橋記念講堂で開催されたシンポジウム「インタラクション 2010」(大会委員長：西本一志，プログラム委員長：戸田真志，プログラム副委員長：市村哲，迎山和司，加藤博一)に連動した企画の1つである。

ヒューマンコンピュータインタラクション研究会(HCI)，グループウェアとネットワークサービス研究会(GN)，ユビキタスコンピューティングシステム研究会(UBI)の3研究会が主催するシンポジウム「インタラクション」は2010年に14回目を迎え、人とコンピュータのみならず、人と人、人と環境など、さまざまなシーンにおけるインタラクションをその対象とし、ヒューマンインタフェース、メディア処理、認知科学、心理学、アートなど、幅広い視点から最新の研究成果が集い、議論を通じた研鑽の場として定着している。当該シンポジウムは、厳しい査読を経た一般講演発表、デモンストレーション発表(インタラクティブ発表)を核とし、近年は、毎回600人超の参加者を集め、国内シンポジウムとしては、発表件数、参加者ともに最大規模を誇るまでに発展してきた。これらは、インタラクションという研究分野の重要性と広がり、将来性と活発さを裏付ける証左であろう。

この分野の研究は、人間行動の洞察と実験実証、デバイスの発展にともなう先進的モダリティの提案、計算装置の性能向上と手法の創意工夫とを両輪とする高速・軽量化、それらを活用した情報との関わり方についての新しい発想や考察などを主題とする。この特質は、めまぐるしい進歩と発展に遅滞なく公表するとともに、見識、叡智として広くこの分野に関心を寄せる人々の共有財産とすることで一層活きる。すなわち、迅速な論文化の機会の提供が肝要である。以上の趣旨をふまえ、インタラクション 2010の開催を契機とした本特集を企画した。

本特集では、上述したように、インタラクション 2010での活発な議論を経た研究を中心としつつも、それに限ることなく同分野における取り組みについて、基礎原理から応用分野まで幅広く論文募集し、54件の投稿を得ることができた。特集号編集委員会は研究分野の裾野の広さを熟慮して、各専門分野にていづれも広く深い見識を持つ方々によって組織した。第1回特集号編集委員会を2010年9月、第2回を同年12月に開催し、多角的かつきわめて慎重な議論を繰り返した結果、最終的に20件を採録とした。採録された論文は、いづれも提案、論理、考察において読者に知見と着想を与えるレベルに達していると判定したものである。本特集号は非常に多様な論文によって構成されており、紙面の都合上、個々の採録論文に関する要素技術をここに例示することさえ困難なほど多岐にわたる。これこそ、当該分野が関わる研究課題の広さと発展の速さを端的に表象しているといえるであろう。

当特集号の編集にあたり、投稿いただいた著者各位、編集に尽力いただいた幹事、編集委員、査読者各位、ならびに学会事務局の皆様には、並々ならぬ努力に心から敬意を表すとともに、協働して研究を研磨し、意義ある論文を読者に届けようと真摯に議論いただいたことに深く感謝する。当特集号が「インタラクション」という研究分野における道標の1つとなり、次なる発想への鼓舞となることを切に願う。

「インタラクションの基盤技術，デザインおよび応用」特集号編集委員会

- 編集長
戸田真志(公立はこだて未来大学)
- 幹事
市村 哲(東京工科大学)，迎山和司(公立はこだて未来大学)，
加藤博一(奈良先端科学技術大学院大学)
- 編集委員(五十音順)
秋田純一(金沢大学)，井上智雄(筑波大学)，江渡浩一郎(産業技術総合研究所)，
岡本昌之(東芝)，小野哲雄(北海道大学)，加藤直樹(東京学芸大学)，
河野恭之(関西学院大学)，後藤真孝(産業技術総合研究所)，志築文太郎(筑波大学)，
寺田 努(神戸大学)，苗村 健(東京大学)，中西英之(大阪大学)，
中村聡史(京都大学)，福本雅朗(NTT ドコモ)，藤波香織(東京農工大学)，
福地健太郎(明治大学)，細部博史(国立情報学研究所)，三浦元喜(九州工業大学)，
水口 充(京都産業大学)，宮下芳明(明治大学)

^{†1} 公立はこだて未来大学
Future University Hakodate